

2006

2006 白州



# 「キララ夏の学校」

2006年8月3日(木)～9日(水)

開催地 山梨県北杜市白州町横手

主催 キララ新聞社

後援 白州郷牧場・白州森と水の里センター

## KILALA NEWS

発刊日 2006年7月10日  
編集発行 キララ新聞社  
山梨県北杜市白州町横手 2259  
電話 0551-35-0131  
<http://www.hakusyu.jp/kilala/>

# 「夏の学校」で願っていること

秋山 眞兄（校長）

キララの「季節の学校」の願いは、子どもたちに「生きる力をつけてもらう」ことです。ただ「生きる力」とは何か、それが問題です。

体力、学力、能力、経済力…、どれも欲しいものです。あれば得することばかりで、損になることは決してないでしょう。でも「損得」だけが人生ならば、それは淋しい人生ではないでしょうか。

昨今ニュースをにぎわしている六本木ヒルズを根拠地にした人々の華々しい人生は、あだ花という花でしかなかった、ということではないでしょうか。

かといって「清貧こそ人生」と叫びたいわけでもありません。ただ、「清貧」がなぜ、単に「貧」ではなく「清」貧なのか。言い換えれば「清富」「清豊」でも、「清」の内実があればいいのではないか。そんな気がしています。「清」の内実、それが問題なのでしょう。

キララ「夏の学校」では子どもたちに、大気を味わい、風を味わい、水を味わい、森を味わい、田畑を味わい、生物の生き様を味わい、宇宙を味わうことをしてもらいたい。野菜を収穫し、鶏をさばき、命を得させてもらうことを体感してもらいたい。畑仕事をし、鶏・牛の世話をし、料理をして、生活を担うことをしてほしい。学習、読書、音楽、

鑑賞をしてほしい。そして何よりも、さまざまな性格、さまざまな年齢、さまざまな生き方をしている人たちと仲良くなってほしい。

そして、それを通して、自分はちっぽけな存在でしかない、でもかけがえのない者だ。だから、かけがえのない仲間や自然とともに生きていこう。そのことをどこかで感じてくれること、

自覚してくれること、確信してくれること、それこそが「生きる力」であり、「清」な生き方なのではないか。私たちはそう思っています。

竹で自分が使う食器を作ることから始まり、仲良くなった仲間ととことん楽しむ「キララ祭」

で終わる「夏の学校」を通して、子どもたちの何かが変わり、生きる力を伏流水のように自分の中に取り込んでほしいと思っています。

私たちキララのスタッフは、夏に子どもたちがやってくることを、何よりも楽しみにしています。ただ、私たちは「教育のプロ」意識は持っていません。しかし、子どもたちに願っている「生きる力をつけてもらう」ことは自分自身の課題でもある、だから子どもたちと一緒に過ごしてみたい、という思いに満ちているスタッフです。



# 参加に当たって一お願いと諸事項

**集合** ― 8月3日(木) 午前9時

JR 中央線西国分寺駅 南口ロータリー

※そこからは皆で貸切バスで行きます。集合は時間厳守をお願いします。

**解散** ― 8月9日(水) 午後4時半頃

集合した、西国分寺駅南口ロータリー

※道路事情で多少到着時間が前後する場合があります。ご了解下さい。

**持ち物** ―必ず名前を書いてください！

着替え(長袖シャツ・長ズボンは必ず持たせてください)/洗面用具・タオル/水着・ビーチサンダル/雨具(登山用の雨具は上下分かれたものを)/帽子/防寒用のトレーナーか厚手の上着(寒くなることもあります)/筆記用具/保険証コピー/サブリュック/懐中電灯/水筒/初日の昼食弁当

以上は必需品です。寝袋を持っている子は持参してください。野外で寝ることもあります。

※必ず自分で荷物の用意をさせてください。自分の持ち物かどうかを分らない子がいます。

※忘れ物が大量に出ます。名前をはっきり書いてください。

※無くしたり壊れたりしたら惜しいものは持ってこないでね。

※農作業などや野外の活動で、服や靴は汚れます。着慣れた服・履きなれた靴など汚れても惜しくない物を持ってきてください。

※余分なお金、ゲーム機、携帯電話、お菓子、は持たせないでください。

※虫かご・絵を描く道具・勉強道具などは各自でご判断ください。

**参加費**

小学生 42000 円 中高生 45000 円

開催地で合流する場合は、

小学生 38000 円 中高生 40000 円

※兄弟姉妹で参加の場合、2 人目から各 4000 円の割引制度があります。ご連絡下さい。

※白州町・横手の子供達の参加に当たっては参加の様式と参加費用について別途対応となります。

歓迎いたしますのでご連絡下さい。

**参加費振込先**

①山梨中央銀行 国分寺支店 普通口座 916410

キララ 見田由布子

②郵便振替口座 00200 - 4 - 95036

白州・キララの学校

※郵便振り替え用紙は夏の学校案内に同封してお届けしております。ご利用ください。

※尚、ドゥコープの組合員の方々の参加もこの口座でのお振込みをお願い致します。

※申し込み後、お振込みください。

**参加申し込み**

7 月 25 日までに同封の申し込み用紙を、

白州・森と水の里センター FAX 0551-35-0132

まで FAX 送信してください。

※申し訳ありませんが、参加申し込みは FAX でのみお受けしています。

※記載事項は可能な限り詳細にご記入ください。

締め切りは 7 月 25 日、先着 50 人までとさせていただきます。

**お問い合わせ・緊急連絡**

は下記のいずれかで承ります。

・白州郷牧場 0551-35-4520

・白州・森と水の里センター 0551-35-0131

・秋山校長携帯電話 090-5406-3523

・池原担当携帯電話 080-1088-1856

その他 メールでのご連絡は、

info@hakusyu.jp で承ります。(参加申し込みはご遠慮ください)

キララの学校のホームページをご覧ください。

http://www.hakusyu.jp/kilala/



# 2006 夏の学校プログラム「講座」 編

## 発酵を学ぶ

①毎日食べる食物、その残渣を発酵させて動物（鶏）の餌をつくります。今までは微生物の講義を受け残渣を土に戻すところまでをやっていましたが、今回は発酵飼料をつくり、鶏に給餌することまでを見届けようと思います。攪拌式の発酵機を使います。

②米麴を仕込み、野菜の漬物や冷たい甘酒・夏の清涼飲料を作って食卓に載せたりやおやつにします。

50 時間に及ぶ麴の世話を通して、酵母の動きを観察し、酵母などの微生物が物を変化させ食物をつくることを体験します。微生物が生活や身体にどんな影響を及ぼしているか、人間や生物にどんなかわりを持っているかの一端を理解できるような講座を目指してみます。

## 夏の星座観察

白州は星の綺麗な里ですが、夏はお天気の変動もあり星座の観察は夜空を毎夜見上げて雲の去るチャンスを見逃さまいと奥地さんと子供達は戦々恐々としします。今年は、「夏の大三角」を見つけることができるだろうか？白鳥座のデネブ・琴座のベガ・鷲座のアルタイル、そしてさそり座のアンタレスの赤い星、いくつみつけることができるでしょう。

## 山登り（八ヶ岳三つ頭 or 尾白川渓谷）講座

登山は小学校高学年以上が毎年取り組んできました。今年は、毎日眺めている八ヶ岳の一番手前のピークを高学年の子供達で目指すか、白州の美味しい水の原点である尾白川沿いの渓谷を子供達全員で遡るかを、天候や子どもの状態で判断します。登山は子供達の体力づくりや忍耐力の涵養とともに、火山、岩石、地質・地形など、「自然を学ぶ」フィールドワークともなってきました。

## リズムと音で遊ぼう

打楽器は誰でも気軽に触れられ楽しめる楽器です。身近にあるものはほとんど打楽器に変身します。手を叩くだけでそれはもう打楽器でリズムの始まり！前回に引き続き、今年も竹を使い楽器を作ります。その竹は春に伐採し今乾燥の最中です。勿論、身の回りのものも使って自分で工夫しながら楽器を作ります。そしてみんなが作った楽器を使っの「演奏会」をします。毎回、みんなの創造力には驚かされますが、今回も予想が出来ない「奇品(?) 珍品」が飛び出すか楽しみです。

## 奥地先生の自然学講座

第一回は「日本列島の成り立ち」、二回目は「花崗岩の誕生」。三回目となる夏の学校の自然学講座はどんなお話になるでしょう。視聴覚教室での講義とともに白州のフォッサマグナ上に成立する地形や岩石をフィールドワークする講座になる予定です。

## セリ田の生物観察

水をはった田んぼで、水中や水辺に棲む動植物を観察します。多様で多彩な姿の生き物を見つけ、ミジンコや小昆虫を採取して、顕微鏡でのぞき姿を描写したりします。小さな生物に寄せる子供達の集中する様子や親しむ姿は「同じ仲間」への姿勢でしょうか。普段の生活では想像も出来ない生物たちの生態が見え、小宇宙があり、その小さな世界から人のちっぽけさや狭さが浮かび上がり、生きるということは何かと私たち大人は考えさせられます。



## 白州シアター

小栗康平監督の映像教室がこの夏も実現できるかどうかを検討してもらっています。新設された視聴覚室で大きな画像での映画鑑賞を企画しています。アジアの人々や昔の人たちの人生と文学を映画を通じて感じる事ができたらと思っています。

# 2006 夏の学校プログラム「生活と遊び」 編

## 開校式・フィールドを知ろう・竹の食器作り

初めて出会う人たち、久しぶりに再会する友達。自己紹介しながら皆の顔と名前を脳の海馬に記憶してもらうことから始まります。一週間暮らす白州・横手の里のフィールドを地図を使って探索します。子供達自身の横手地図を少しづつ多彩なものにしてゆければと思います。

開校式直後は、自分が 1 週間使用するお茶碗、お皿、お箸を孟宗竹で作ります。竹には抗菌作用があり、食器に適している素材です。子どもでも細工しやすく、毎年熱心に取り組んでいます。

## 食事づくり

夕飯づくりは班の大事な仕事です。例えば「今日はトマトの日」というように、決まった食材テーマに従って、班の仲間と班リーダー達と協力し合い献立を決めチームワークで作ります。これがうまくいかないと夕飯はご飯とトマトだけということにもなりかねない。食材の自給と調達は夏の学校の大きな課題となっています。鶏をさばき、食材としての鶏肉にすることをやります。「命を頂き命に変える」作業に直接関わることになります。

## 川遊び

花崗岩のつくる清流、尾白川や大武川での川遊びです。自分の気に入った花崗岩を採取したり、滝に打たれたり、冷たい水の流れを全身で楽しめます。夏ならではの遊びです。

## いろいろな遊び

- ①竹細工―竹を用いて遊び道具や楽器を作ります。「けん玉」「花びん」「おきもの」や、「竹とんぼ」など、自分なりの工夫を加えて作ります。
- ②森で遊ぶ―ネイチャーゲームや隠れ屋づくりなどをしてきました。今年はハンモックを森に設置しようと思います。思い思いに本を読んだり昼寝ができればよいですね。
- ③虫取り―早朝のカブトムシ採りは特に男の子の不可欠な夏の行事となっています。砂糖とバナナで誘き寄せる餌をつくり、夜のうちに木に仕掛けをつくって朝を待ちます。
- ④小田原企画―異彩をはなつ小田原企画社長の何が飛び出してくるか分からない工作プログラム。その中身はいつも、どこかあいらしく、ほほえましく、どこかずっこける、子どもたちに大人気なプログラム。さてさて今年はいったい何が飛び出してくるのか、お楽しみ。
- ⑤今年も「泥んこバレーボール」をやるかもしれません。

## 農に触れる

毎日朝夕の「作務」を行います。鶏や牛などの動物達の世話、卵採り、食材を焔で収穫すること、農場のスタッフと一緒に野菜の収穫や草取りなどの農作業も行います。この一・二年、イノシシやテントウムシダマシの害で断念していたジャガイモ掘りは今のところ今年は大丈夫です。この作務やジャガイモ掘りの作業は、班毎でその成果が計られ、「キララ通貨」を子供達は手にします。

## 洗濯

小さな子供達の、仕事なのか遊びなのかかわからないけど、桶と洗濯板と石鹸を使って自分の衣類を洗います。干すのも仕事、乾いた衣類をたたむのも仕事。その姿は何故かいつも一生懸命。

## キララ祭り

一週間を過ごした仲間たちとつくる学校最後の夜の祭りです。屋台の模擬店や催し物を各班で企画し出店します。一週間のキララの学校の成果を班ごとに評価し、キララ貨を受け取り、キララ為替に従って円と交換し、キララ祭りの資財とします。この際の評価と為替の相場に対する子供達の反応は真剣そのものです。そして村の店へ日本円を持って資材を買いに出かけ、祭りの用意です。後は横手の人たちを招待して、楽しむだけ。

## 日記とキララ日々新聞と家への手紙

日記の用紙と家にするはがきが用意してあります。キララ日々新聞は誰かが書き始めると、ドンドン張り出される壁新聞は多彩になります。

## 閉校式と野菜送り

最後の日は、作文を書き、掃除をし、待っていてくれる家族へ自分達で収穫した夏野菜を梱包し送る準備をし、閉校式で牧場やキララのスタッフとさよならし、帰路につきます。

## 韓国の子供達との交流

一昨年、韓国・テグの緑・平和生協の子供達 10 人が夏の学校に参加しました。今年も一週間共に参加し交流することになりました。最初は言葉も通じないけれど、子供達同士のコミュニケーションが活発になされるようになります。今年も韓国の子供達と出会えます。

# 森や水や植物や生き物を、毎日、見て、触れて、付き合ってみよう！

都会は人間のつくったものばかり。人間がつくったものでないもの

# 君は人間をしているか？

にわとりはにわとりをしている。トマトはトマトをしている。牛は牛をやっている。